

事例18

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代の患者。左右下肺静脈共通幹あり。BMI 18.5 kg/m²。
- ・ 約 4 か月の病歴を有する発作性心房細動に対し、高周波電極カテーテル、イリゲーション電極カテーテル、ホットバルーンカテーテルを使用しアブレーションを実施。治療当日から消化性潰瘍治療薬を 2 剤開始し、治療 5 日後に退院した。
- ・ 治療約 2 週間後、発熱のため他医療機関 A に入院。脳梗塞、縦隔膿腫疑いで他医療機関 B に転院した。治療約 3 週間後、心臓超音波検査で左房内血栓、左房食道瘻を認め、左房内血栓除去術、欠損孔パッチ閉鎖術を実施した。治療約 1 か月後に急性硬膜下血腫を認め開頭血腫除去術を実施したが、治療約 2 か月後に死亡した。
- ・ 死因は、左房食道瘻、左房内血栓からの全身多発性梗塞。解剖有、死亡時画像診断 (Ai) 無。